

さくらタイムス 令和4年7月号

投票券が届く頃ですね。今回はそのお話です。

今から30年ほど前、ワシントンのホワイトハウスから東へ数キロにある黒人居住区の公立幼稚園へ、日本の教育関係者視察に通訳として同行した時です。すべて黒人の年長さん達は「投票ごっこ」をしていました。黒板上の「動物さん立候補者」はそれぞれの政策を展開し、子ども達は手を挙げて、「理由とともに」誰に投票するか発表していました。「毎月1ガロン（4.5L）のアイスクリーム支給」に目が輝く子どもも確かにいたのですが、大半は「マミーはいつもタックス（税金）が高いって言うの。無しにしてくれるドンキー（ロバ）に投票するわ。」とか「ダッドは仕事がないんだ。働かせてくれるライオンがいいと思う。」など親のためになるよう選んでおり、その一生懸命な様子に感動していました。その後十数年たって、オバマ氏が初の黒人大統領に就任した時「あの子たちが本物の選挙権を行使して選んだ」のだとニュースを見て泣き、「教育と主張し続ける力」の凄さを知りました。

「子育て世代」として、今の生活に関わる要求はもちろん、大事な子ども達が将来「幸せに過ごせる社会の仕組み」のため、それぞれのお立場からの「主張」を一票に託していただきますよう切にお願いいたします。

ありがとうございます

園長 山内 香幸